

久留米市における新型コロナウイルスへの対応について

【上半期の総括】

1. クラスタに的確に対応 その後クラスタの発生なし

4月にナイトクラブでクラスタが発生したが、迅速な初期対応と丁寧な疫学調査により、クラスタを封じ込めた。その後、久留米市でクラスタは発生していない。

当時、店名公表を行う自治体が少ないなか、いち早く店名を公表して利用者への呼びかけや検査を行い、さらなる感染の広がりを抑えた。

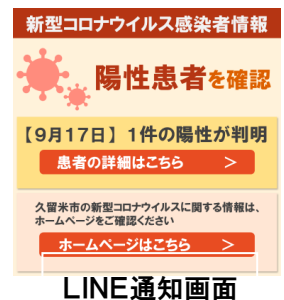
ナイトクラブクラスタ（確認日：4月22日）

陽性者：27名 検査実施：90名 利用者からの問合せ：72件

2. 市ホームページやLINEで発生状況等を見える化

毎日、陽性者の発生状況を市公式LINEで発信。行動歴などを掲載したホームページにダイレクトにアクセスできる仕組みを構築した。

陽性者数や検査数、感染経路などをわかりやすくグラフで掲載。併せて動画等も作成し、注意喚起や予防啓発を行った。



3. 医師会や病院と緊密に連携 入院患者はすべて市内病院で対応

医師会や患者対応に当たっていただいている病院と随時意見交換を実施。現状や課題を共有するとともに、患者対応や検査体制について緊密な連携を図っている。

久留米市で発生した市内在住の入院患者は、市の豊富な医療資源と感染症指定医療機関等の協力により、すべて市内の病院で受け入れていただいた。

4. PCR検査体制の拡充と積極的な実施

当初、2か所の帰国者・接触者外来での検査体制をさらに3か所増設して合計5か所とした。

また、医師会や医療機関と連携し、5月4日、ドライブスルー型の地域外来・検査センターを設置した。

救急患者受入病院では積極的に検査を実施するなどし、病院でのクラスタはゼロを更新している。

【下半期に向けて（インフルエンザの流行期に備えて）】

1. かかりつけ医でも検査を実施

久留米市では、多くの発熱等の患者に対応できるよう、9月23日から、かかりつけ医など91か所でPCR検査や抗原検査を順次開始。1日約1,000件の検査実施体制を整える。

※検査可能機関：91か所 PCR検査：68か所、抗原検査：78か所

2. 重点箇所への積極的な感染予防対策

クラスターが発生しやすい高齢者・障害者施設に対し、感染予防に関する講習会を開催。併せて専門家による実地指導を進めており、感染予防に力を入れている。

全国的にクラスターが発生している繁華街の飲食店や大学、学生寮に対しても、随時、感染予防啓発や現地指導に取り組んでいる。

○高齢者等施設への予防啓発

講習会参加：計243施設 現地指導：計60施設（予定）

○繁華街飲食店への予防啓発

講習会参加：延べ100名

3. 一人ひとりが感染予防の取り組みを

一人ひとりがマスク着用や手洗い、密を防ぐなどの基本的な感染予防にしっかり取り組むことが重要。

今年度、高齢者のインフルエンザ予防接種が無料。重症化しやすい高齢者をはじめ、小児、妊婦、基礎疾患のある方などは早めの接種を。

4. 保健所の機動的体制の維持・強化

陽性者の発生状況などに応じて、組織体制を柔軟に変えることができるよう、全庁的に職員を兼務させて応援体制を組んでおり、今後も機動的な業務運営を図る。

また、効率的な業務遂行のため、ウェブ端末を積極的に活用し、高齢者施設などへのウェブ講習、外部や庁内各所とのオンライン会議等を実施しており、今後もさらに活用を進めていく。